

2025 年度 FD 活動の取組み

1. FD・SD 研修会

テーマ: 教学マネジメント ～学修成果を把握・検証する必要性と具体的な方法～

講師: 岡安智美氏 (株式会社ベネッセ iキャリア)

司会: 新納卓也 (副学長)

主催: 武蔵大学 FD 委員会

対象: 専任教職員

開催日時: 2025年7月17日(木)15時30分～16時30分

開催形式: ZOOM によるオンライン開催 (やむを得ない事情により研修会を欠席した教職員は後日研修会の録画をオンデマンド方式で視聴)

昨年に引き続き株式会社ベネッセ iキャリアの岡安智美氏を講師としてお招きし、「教学マネジメント—学修成果を把握・検証する必要性と具体的な方法—」をテーマとする FD・SD 研修会を開催した。

ベネッセ iキャリアは、「“まなぶ”と“はたらく”をつなぐ」という理念のもと、大学在学中の学びが社会において適切に評価される仕組みの構築を目指し、高校から大学、さらに社会への接続を見据えた主体的な学びを支援する取り組みを進めている企業である。本学においても、同社が提供する問題解決力を測定するアセスメントテスト「GPS-Academic」を、2023年度より支援サービスとして導入している。

本研修会のテーマである学修成果の可視化については、評価指標の設定や、可視化後の分析・検証方法など、検討すべき課題が多く存在する。本学にとっても重要な課題であることから、今回の研修会は当該テーマへの理解を深めるうえで大変有意義な機会となった。

講演の冒頭では、教学マネジメントをめぐる政策動向について、昨年度の講演内容を振り返るかたちであらためて説明がなされた。2018年の中央教育審議会「高等教育のグランドデザイン(答申)」において、2040年の社会を見据え、予測困難な時代を生き抜く人材育成や、学修者本位の教育への転換の重要性が初めて明確に示された。これを受け、2020年には、大学が求められる教育を担保するための「教学マネジメント指針」が公表されている。同指針では、大学が掲げる三つの方針(DP・CP・AP)に基づき、教育成果を可視化・検証し、その結果を踏まえた改善活動を、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」で定期的に行うことが求められている。具体的な運営プロセスとしては、①DPを起点とした学修目標の設定と科目との関係整理、②アセスメントプランの策定、③学修成果の可視化と分析、④分析結果に基づく教育改善・改革、⑤取組状況の情報公開、という段階が示されている。また、2022年改正の大学設置基準においても、三つの方針に基づく学位プログラムの編成と、内部質保証による教育研究活動の不断の見直しが求められ、学位プログラムを点検の中心単位とする考え方が一層重視されている。

続いて、2025年2月に公表された「我が国の『知の総和』向上の未来像—高等教育システムの再構築—(答申)」について紹介がなされた。この答申は、「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」という諮問に対するものであり、2040年までに学生数が約3割減少することを前提に、量的拡大から質的向上への転換を高等教育に求めている。その中では、出口における質保証や新たな評価制度の構築が重要な課題として位置づけられている。特に新たな評価制度については、評価対象を従来の機関レベルから学部・研究科レベルへと移行させること、また評価結果を単なる適合・不適合ではなく、数段階で示すことが新たな方向性として提示された。これにより、今後はカリキュラムの検証・改善を行う単位として、学位プログラムレベルでの取組が一層重要になることが確認された。

次に、本学におけるこれまでの取組の整理と、今後の課題について説明がなされた。本学では、学長

を委員長とする内部質保証委員会が各学部・研究科等に対して検証を依頼し、各組織がその結果を報告するという形で自己点検・評価を実施している。学修成果については、学内基準に基づくDP到達度評価や、外部指標を用いることにより、一定の可視化が図られている。2027年度から新カリキュラムが施行される予定であるが、今後は可視化されたデータを分析・評価するにあたり、2022年度カリキュラム生と2027年度カリキュラム生とを比較しながら、継続的な教育改善を行っていく必要があるとの見解が示された。その際の評価(アセスメント)の枠組みとして、「診断(入学時)」「形成(在学時)」「総括(卒業時)」の三つの区分が紹介され、それぞれの評価における観点の具体例や、成蹊大学・京都産業大学における取組事例について説明がなされた。

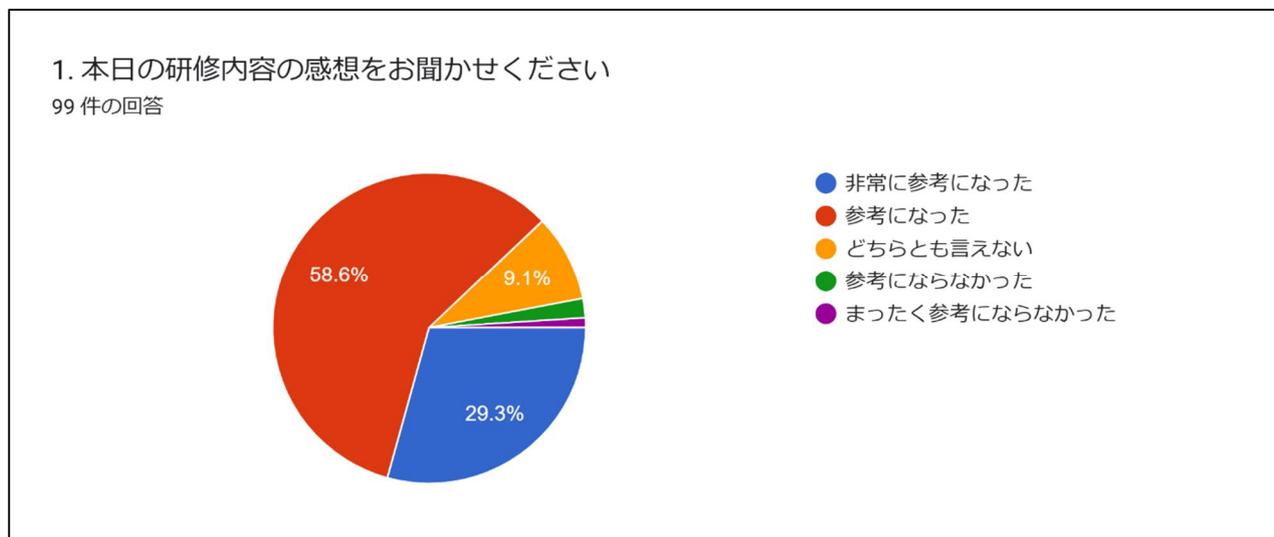
本講演の終盤では、「データをもとにしたアセスメントと質向上の議論」と題し、学修成果データの読み取り方と、それを教育改善にどのように結びつけていくかについて整理が行われた。学修成果の把握にあたっては、直接評価・間接評価、量的評価・質的評価といった複数の視点があり、それらを適切に使い分けることの重要性があらためて確認された。

そのうえで、本学のアセスメントポリシーに基づき、2023年度から1年次及び3年次に実施している「GPS-Academic」の結果(主観評価及び客観評価の学部別データ)をもとに、今後の教育改善に向けた示唆に富む論点が示された。まとめとして、全国平均との差異や学部・学科間比較を通じて自大学・自学部の学生の特徴を把握すること、また過年度データとの比較により学生の意識変化やカリキュラムの影響を検証することなど、エビデンスに基づく議論を教育改善につなげていく重要性が強調された。

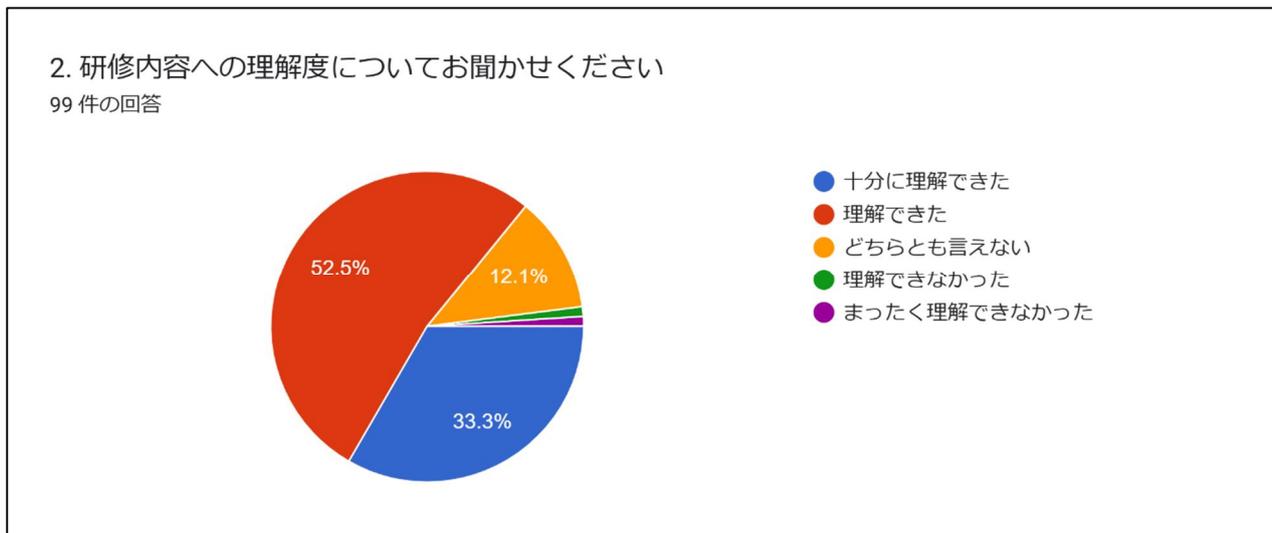
【FD・SD 研修会受講者アンケート回収結果】

アンケート回収結果の詳細は以下の通りである。

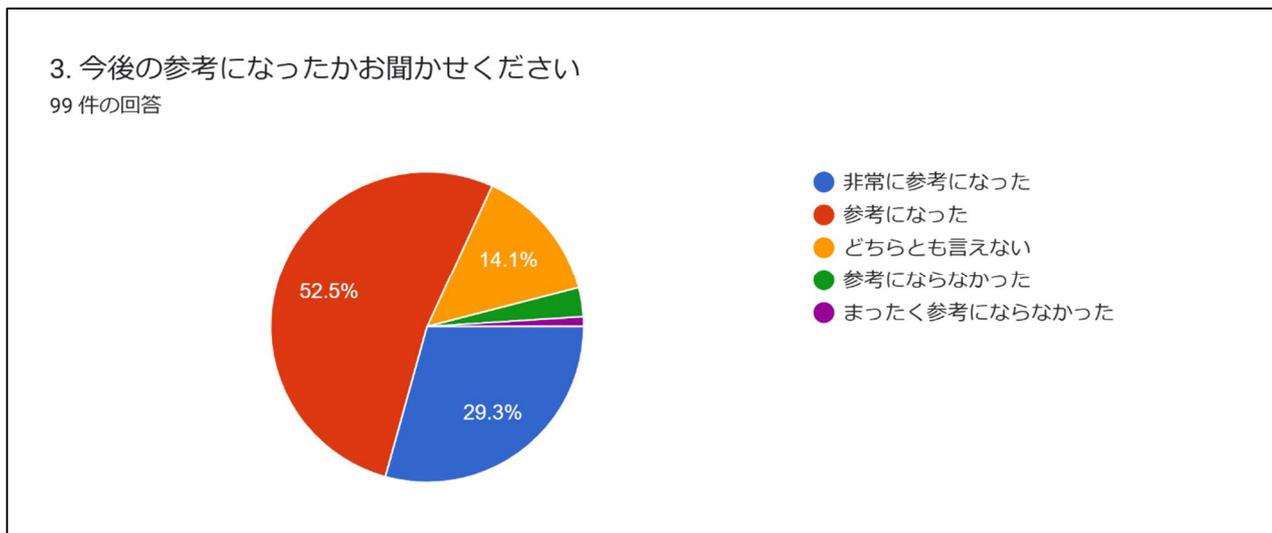
質問1. 本日の研修内容の感想をお聞かせください。



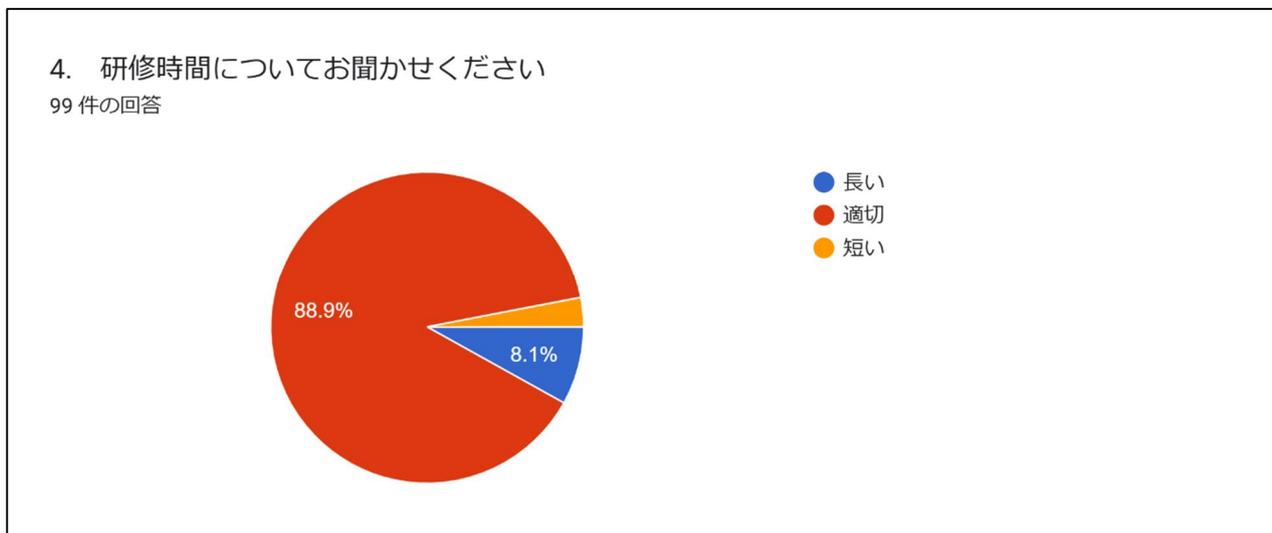
質問2. 研修内容への理解度についてお聞かせください。



質問3. 今後の授業改善の参考になったかお聞かせください。



質問4. 研修時間についてお聞かせください。



2. FD フォーラム「学生と共に考える授業改善」

全体司会:伊藤誠悟(FD 委員長、経済学部教授)

日時:2025 年 11 月 27 日(木) 17 :20~18 :20

場所:ZOOM によるオンライン開催

テーマ:武蔵大学の教育(授業)に対する改善点について

〈趣旨と概要〉

武蔵大学 FD フォーラムは、設定されたテーマに基づき、学生が授業改善に向けた提案を行い、それを受けて学生と教職員がともに授業改善について検討することを目的とした企画である。FD 活動の中でも、とりわけ学生の参画を重視した取り組みであり、授業評価アンケート等では把握しきれない学生の率直な意見を共有しながら、教職員と学生が一体となって課題の整理や改善の方向性について検討する場として位置づけられている。

本年度は、高橋学長による開会挨拶の後、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用い、各学部及び教職課程に分かれて実施した。各学部ならびに教職課程からは、合計 13 名の学生に登壇いただき、それぞれの立場から授業や学修環境に関する提言が行われた。なお、実施概要については、以下に示すとおりである。

1. タイムスケジュール

時間	内容
17:20 [5分]	開会挨拶 (高橋学長)
17:25 [30分]	学部毎に分かれて学生からの提言 ※1 グループ 10~15 分程度
17:55 [25分]	ディスカッション (進行:各学部 FD 委員)
18:20	閉会(ディスカッション終了次第、学部ごとに閉会)

2. 学生からの提言

所属学部等	所属学科	学年	氏名
経済学部	経済学科	3	川北 晟矢(カワキタ セイヤ)
			福島 優太(フクシマ ユウタ)
			高橋 大洋(タカハシ タイヨウ)
人文学部	日本・東アジア文化学科	4	八幡 洋光(ヤワタ ヒロアキ)
		3	小池 良太(コイケ リョウタ)
社会学部	社会学科	2	關 文菜(セキ アヤナ)
		2	野々村 星玲(ノノムラ セレン)
国際教養学部	国際教養学科 (EM 専攻)	3	横井 嘉乃(ヨコイ カノ)
	国際教養学科 (GS 専攻)	2	池田 琥南(イケダ コナン)
教職課程	英語英米文化学科	4	乗次 美采(ノリツグ ミコト)
	社会学科	3	井手本 菜央(イデモト ナオ)

昨年度に引き続き、各学部及び教職課程ごとにブレイクアウトルームに分かれ、所属学科や教職課程それぞれの事情を踏まえた提言や意見交換が行われた。その結果、授業や学修環境に関する改善点について、学生・教員双方から具体的な意見が出され、活発な議論が展開された。当日の様子は動画として記録し、後日、専任教員に対して公開した。学生からの提言の中には、全学的な観点から検討すべき内容も含まれており、動画を通じて、所属とは異なる学部や教職課程における議論や提言についても確認できるようにしている。

一方で、フィードバックの方法については、動画の公開のみで十分であるかについて、なお検討の余地がある。今後は、教員からの反応や意見も踏まえながら、FDフォーラムの運営方法の改善に生かしていきたい。次年度についても、基本的には今年度と同様の方法を継続することが適当であると考えている。

(文責:伊藤誠悟)

3. 教員 FD 研修報告

<研修の概要>

名称:令和7年度FD推進ワークショップ【オンライン参加コース】

日程:2025年8月5日(火)10:30~17:20

開催方式:オンライン(Web会議システム Zoom)

主催:一般社団法人 日本私立大学連盟

報告者:遠藤瑞己(リベラルアーツアンドサイエンス教育センター・専任講師)

<研修の目的>

私立大学が持続的に発展し続けるためには、組織的なFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動が不可欠である。FDの活動内容は主に、全学的な教学マネジメントの確立・改善を目標とする「マクロレベル」、カリキュラムの改善を目標とする「ミドルレベル」、授業改善の支援を目標とする「マイクロレベル」と、3つのレベルに分けられ、その範囲は広範であり、FD活動は恒常的であることが求められる。本ワークショップでは、主に「マイクロレベル」のFDに焦点を当て、模擬授業を通じ、経験や専門分野、所属大学の枠を超えた参加者間で意見交換を行うことにより、自身の授業を振り返るとともに、学生の学びや参画を促進する授業運営のヒントを探ることを目的とする。

<プログラム>

- 10:30-10:50 開会・オリエンテーション(全体説明)
- 10:50-12:00 グループディスカッション
- 12:00-13:00 休憩
- 13:00-15:55 模擬授業・グループ内ふりかえり
- 15:55-16:10 休憩
- 16:10-17:10 全体発表
- 17:10-17:20 閉会・事務連絡

<研修の概要>

まず参加者全員を前に、開会・オリエンテーション(全体説明)が行われ、本ワークショップの目的や心構えが共有された。その上で、午前はグループディスカッションとして、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使用し、受講者が少人数分かれて、授業についての問題意識や工夫等を共有し、ディスカッションを行った。お昼の休憩を挟み、午後は引き続き同じグループにて、一人15分ずつの短い模擬授業を行った。模擬授業資料は各自が事前に用意してきており、短い中にも各自の工夫が随所に見られた。各自の模擬授業が終了した後は、それに対して他の受講者からのフィードバックを行うふりかえりの時間も設けられていた。その際には、相手の授業スタイル等を否定することがなく、ポジティブな要素の指摘を特にするということがなされた。また、そこで出された指摘や議論内容は、16:10からの全体発表の場で、グループの代表者がワークショップの受講者全員に共有し、それを踏まえて全体でのディスカッションも行われた。

グループディスカッション及び模擬授業で一緒のグループとなった他大学の教員は、運営側の配慮から同じ分野の研究者ではなかった。そのことにより、まったく異なる分野において、どのような授業が展開されているのか、またどのような資料が準備されているのか等の学びが多かった。同時に、分野を越え

て、授業時に意識することや教員が直面している悩み等に共通性があることも分かり、その点も大きな学びとなった。

報告者がグループディスカッション時に参加したグループ C では、様々なツールを活用している教員が多く、インタラクティブなスライドを実現するアハスライド、課題・出欠管理用の Google クラスルーム・レスポンス、授業内クイズ用の Kahoot!のほか、問いかけに対する回答手段として Line やその他のデジタルツールについての議論があった。また、昨今話題になっている生成 AI について、レポート課題に利用する学生への対処方法について意見交換が行われた。後者の議題については全体発表の場でも議論され、生成 AI は少し前のワープロ導入時の議論と重なる部分があり今後の使用は避けられないこと、むしろ生成 AI の使用の是非ではなく、そうしたツールも含めた講義の到達目標の達成度で成績評価をすべきなどの意見が挙げられた。本ワークショップへの参加を通じ、様々なツールとその付き合い方について学びを深めることができた。引き続き、より学生にとって学びの大きい授業の実施に邁進していきたい。

以上

4. 教務 FD

「学生ポータルサイトの機能充実」

2025 年度の教務 FD では、学生や保証人からの意見をふまえ、学生ポータルサイト(3S)の機能拡張に取り組んだ。

1. 保証人機能の導入

大学では高校までと異なり学習の自己管理が求められる。一方で、保証人(ご父母等)が成績不振や履修状況の問題を早期に把握し、大学と連携して適切な精神的・生活面での支援を行うことも重要である。本学でも、大学と保証人とが連携して修学を支援するという方針のもと、年に1回、3月末に学生の成績通知書を保証人へ送付していた。

近年、学生ポータルサイト上で保証人が学生の成績を閲覧できる仕組みが多く大学の導入されており、本学でも保証人から同様の要望が寄せられるようになってきた。また、従来は保証人に公開していなかった学生の授業時間割についても、成績不振の学生の保証人から「履修登録が適切に行われているか確認したい」との問い合わせが頻繁に寄せられていた。

このような状況をふまえ、2025 年9月より3S に保証人向け機能を追加し、学生の成績及び時間割を閲覧できるよう拡張した。保証人には専用のユーザーID とパスワードを発行し、ログイン後すぐに情報を確認できる。これにより、保証人は学生の修学状況をタイムリーに把握し、就学上のケアや指導が必要な場合は、適宜指導・助言することが可能となった。また、常に成績が保証人に公開されることで、学生本人の自律性や責任感の向上も期待できる。

今後も学生一人ひとりの学修環境を向上させ、学生の学業継続と成長を支える体制整備を進めていきたい。

2. チャットボットの導入

学生からの質問は、基本的に対面で受け付けているため、来室の手間がかかることや、各部局の閉室時間には対応できないことが課題であった。そこで、時間を選ばず、かつ気軽に質問できるツールとして、2025 年度より3S のトップページにチャットボットを設置した。

今回本学で導入したのは、昨今増えてきた生成 AI 型ではなく、回答の正確性を重視し、質問に応じて事前に準備した回答を返すタイプのものである。利用者は、画面上の選択肢またはフリーワード検索を通じて利用することができる。なお事前に質問/回答を設定する内容は、大学生活におけるさまざまな事柄を対象としうるが、導入初年度は、試行の意味合いもあることから教務関係について設定作業を行った。

その結果であるが、3S のトップページという視認性の高い位置に設置できたこともあり、例年窓口が最も混雑する4月には、1、2年次生を中心に、約5,000 回のアクセス(チャット開始から終了までを1 回とカウント。ただし、初回メッセージのみ表示され、終了した場合は含めない)があり、その後も一定数の利用が継続して確認できている。いっぽう、学生からのチャットボットへの質問は多岐にわたり、必ずしもそのすべてに対して事前設定できるわけではない。また自由にメッセージを入力するフリーワード検索の場合、実際には設定済の回答で対応しうる質問であっても、質問の仕方によっては表示されないことがある。今後はこうした課題をふまえて対応品質の向上に努め、「まずはチャットボットで確認する」という意識が学生に根付くことを目指してゆきたい。

なお、2026 年度からは教務課以外の複数部署の回答も設定することになった。これにより、教務関係以外の質問にも回答できるようになる見込みである。